

2 学期終業式「伝える」

人に物事を伝えるのは難しい。でも、伝えようとしないと決して伝わらない。伝え方も大切だ。相手の立場を考慮した物言いが求められる。

「人を諷めようとするときは、言葉に誠意が溢れていなければ効き目がない。仮にも、怒りや憎しみの心が少しでもあれば、忠告は決して相手の心に通じるものではない。」(『言志録』第70条佐藤一斎著、岬龍一郎編訳) 憎しみや蔑みの気持ちで発した言葉は、反発だけが残し、決して伝わらない。「思い遣り(おもいやり)」という言葉がある。「遣る」という言葉は、その動作を遠くに届けるという意味がある。相手を大切に思う気持ち「思い」を込める。誠意、敬意、長所や働きを労う(ねぎらう)言葉、感謝の言葉がそれに当たる。オキシトシン(2021年8月Vol7掲載)が分泌され、相互に温かい気持ちになる。

「有言実行」という言葉がある。「こうなりたい」と自分に伝える意味もある。どの山に登るか、実現には高いハードルがあり、乗り越えるには一人の力・経験の範囲はあまりにも小さい。しかし、言い続ける(伝える)ことで支援者が現れる場合がある。必要なヒト・モノ・コトにつながる可能性が広がる。

「困りごと」は誰にでもある。一人で悩んでいても、一人の力・経験の範囲はあまりにも小さい。負のスパイラル(連鎖的な変動...)に迷い込んでしまう。一方、誰かに聞いてもらうことになれば、①思いを共有してくれる存在が安心感をもたらす。②経験の範囲が拡大し、違う角度からの視点が入ってくる。③専門家・大人につながることで解決に接近する可能性が高くなる。「いじめ」「虐待」「ハラスメント」...。困っている人に手を差し伸べられることは大切だが、自分が困った時に周囲に声をあげられるようにもなってほしい。「自分さえ我慢していれば...」では周りの人も救われない。伝えなければならないことがある時に聴いてもらえる信頼関係を事前に築いておく。「挨拶日本一」「遅刻ゼロ」はそのためでもある。

干支(えと)のはなし

2023年は卯年だ。だが、これは十二支のことで、正確には干支ではない。干支は十干と十二支でできる60の組み合わせだ。十干では、古来より地球は「木火土金水」の5つの要素からできているとされ、それぞれ陰陽があり、兄弟で表現された。例：木の兄(きのえ)＝**甲**、木の弟(きのと)＝**乙**

十干	きのえ 甲	きのと 乙	ひのえ 丙	ひのと 丁	つちのえ 戊	つちのと 己	かのえ 庚	かのと 辛	みずのえ 壬	みずのと 癸		
十二支	ね 子	うし 丑	とら 寅	う 卯	たつ 辰	み 巳	うま 午	ひつじ 未	さる 申	とり 酉	いぬ 戌	あ 亥

よく知られたところでは、甲子園球場は1924年の甲子の年にできたからその名がついたし、歴史的には、672年壬申の年の内乱は、「壬申の乱」と言い、1868年戊辰の年に起きた戦争を「戊辰戦争」と呼ぶ。十二支は、かつて方角や時刻を表すのに用いられた。明石の子午線は、北の方角を表す子と南の方角を表す午を結ぶ線だから、子午線という。また、太陽が南中する(午の方角)前と後だから、午前・正午・午後という。2022年は壬寅(みずのえとら)、2023年は癸卯(みずのと)うだ。ちなみに2024年は甲辰(きのえたつ)、私は60歳を迎える。(泣)これがいわゆる還暦で生まれ年と同じ干支に戻ってくる。

「笑顔のループ」交流文化祭 Vol.43の解答

欣喜雀躍(きんきじゃくやく): 雀が飛び上がるように喜ぶ。**首を傾げる**(くびをかしげる): 疑問に思う。**眉を顰める**(まゆをひそめる): 他人の嫌な行動を不快に思う。**一挙手一投足**(いっきょしゅいつとそうく): 一つひとつの動作。**頬を緩め**(ほおをゆるめ): うれしい気持ちで口元が笑顔になる。**目を細めて**(めをほそめて): うれしく感じてほほ笑む。＜**温かい**・**暖かい**>: 「暖かい」は気温・気候などの「寒い」の対義語。「温かい」は「冷たい」の対義語。眼差しは「冷たい」に続くので「温かい」。**チアアップ**: 元気を出す。励ます。**付け焼刃**(つけやきば): 一時的に間に合わせるための知識・技術。＜**有志**・**融資**>: 有志の演技。**目頭を押さえ**(めがしらをおさえ): 流れ出る涙をおさえてとどめる。**目頭を熱く**(めがしらをあつくする): 感動して涙ぐむ。**秀逸**(しゅういつ): 他に抜きんでて優れている。**汗を流し**(あせをながし): 労苦をいとわず働く。「私の教員生活の中でのベスト文化祭だった。よいお年を...」